

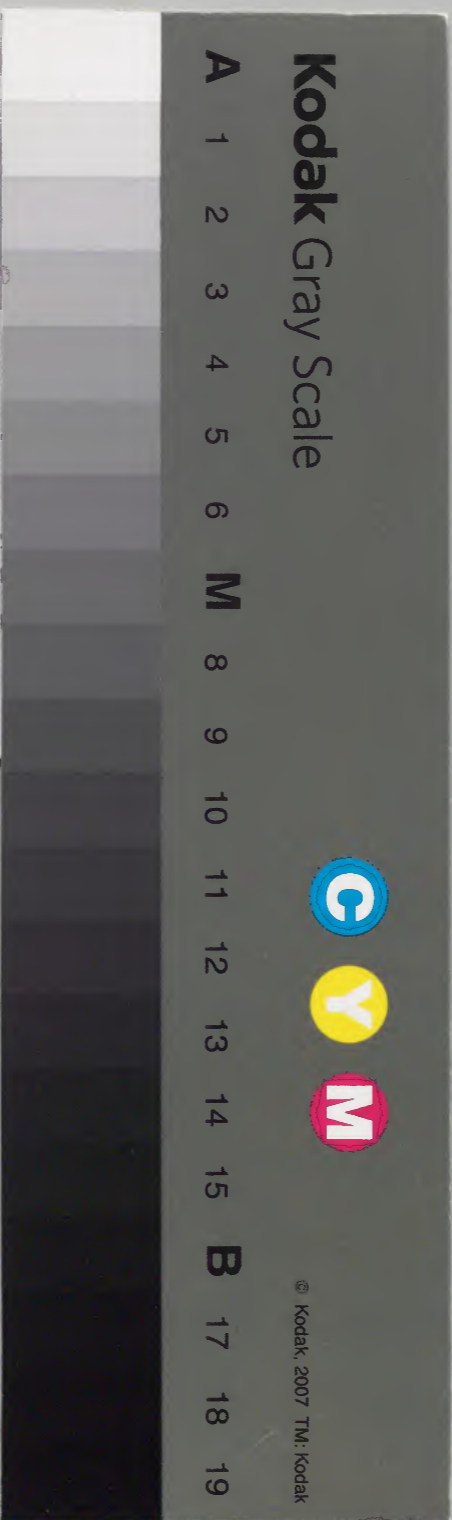
運扶圖會

坤

和書門		二五二六四號	
類	函	架	冊
	九七	一	二

內閣文庫		和書	
類	冊	架	函
	二	一	八三
	二	一	〇

內閣文庫	
番號	和 25164
冊數	2 ( 2 )
函號	183 510





運枝圖會  
坤

富田禮彦稿





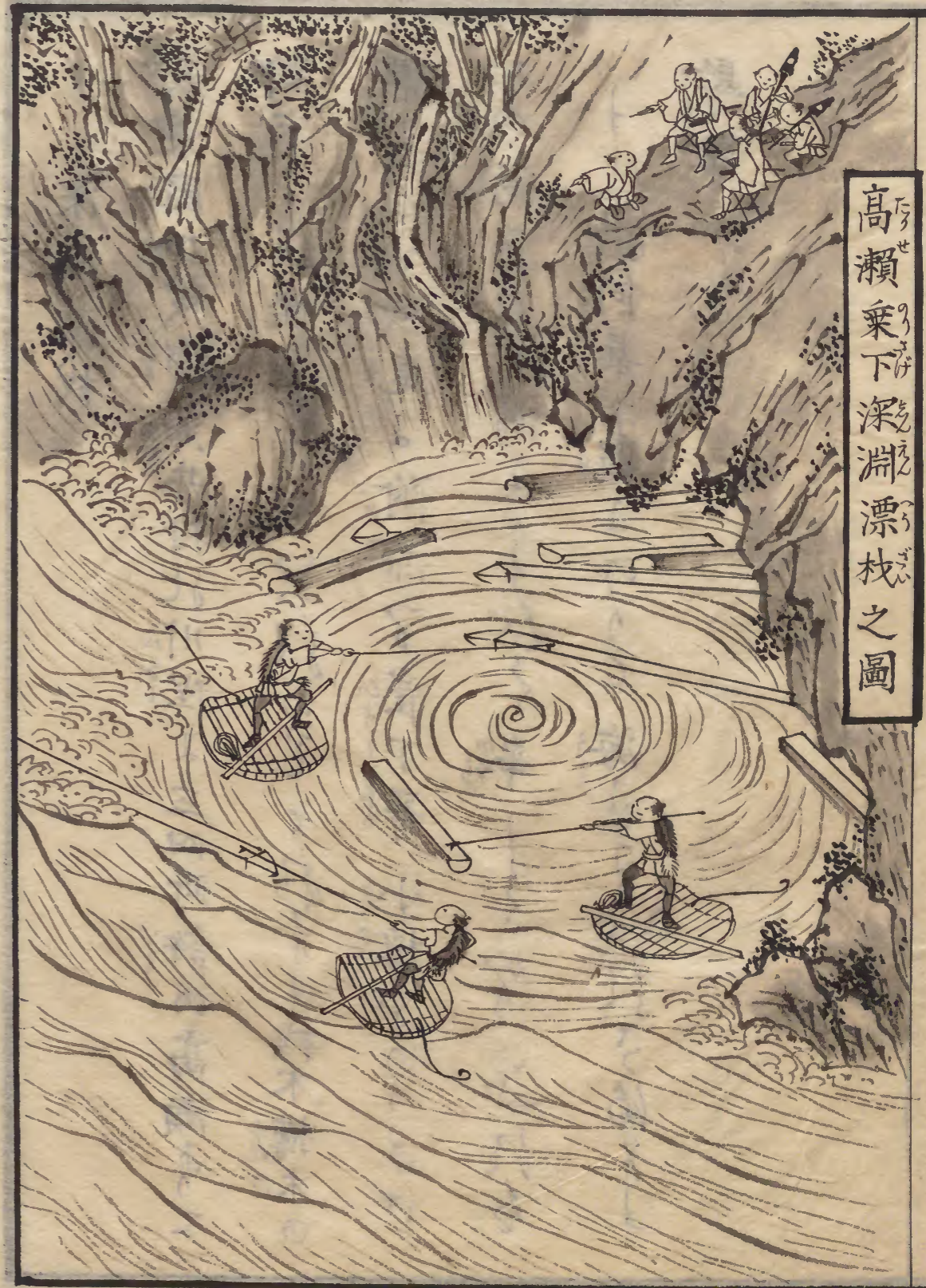






うつゝあふり  
かゝりてあふり  
湯まく流小ほふ  
よわらち  
村上忠順

高瀬たかせ乗下のりくだ深淵ふかふち漂杖あづき之圖





小桴之圖

一名 鍋蓋

小桴 一枚

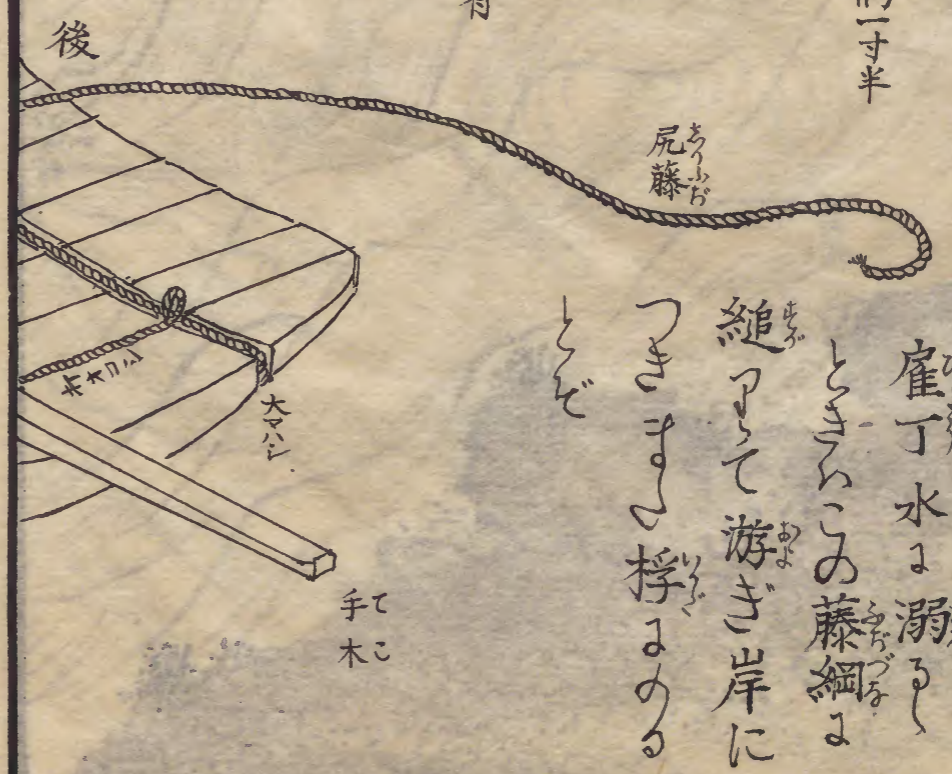
長五尺五寸 幅五尺 厚中央六寸 四方三寸 四隅一寸半

手木 一挺

長六尺五寸 本丸太 中二寸角 末一寸五分角

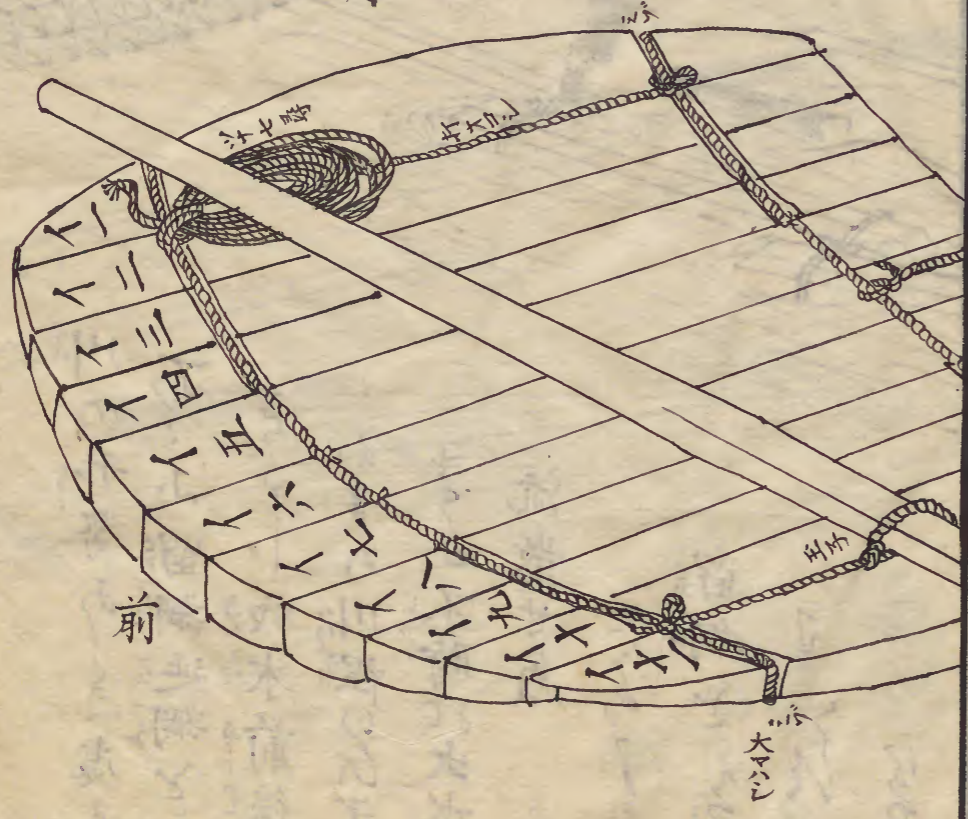
桴木之名

- イ一 耳木 九中四寸五分 搦藤溝付
- イ二 起木 同四寸 同
- イ三 同 同断 同
- イ四 身持脇 同断 同
- イ五 身持木 九巾六寸

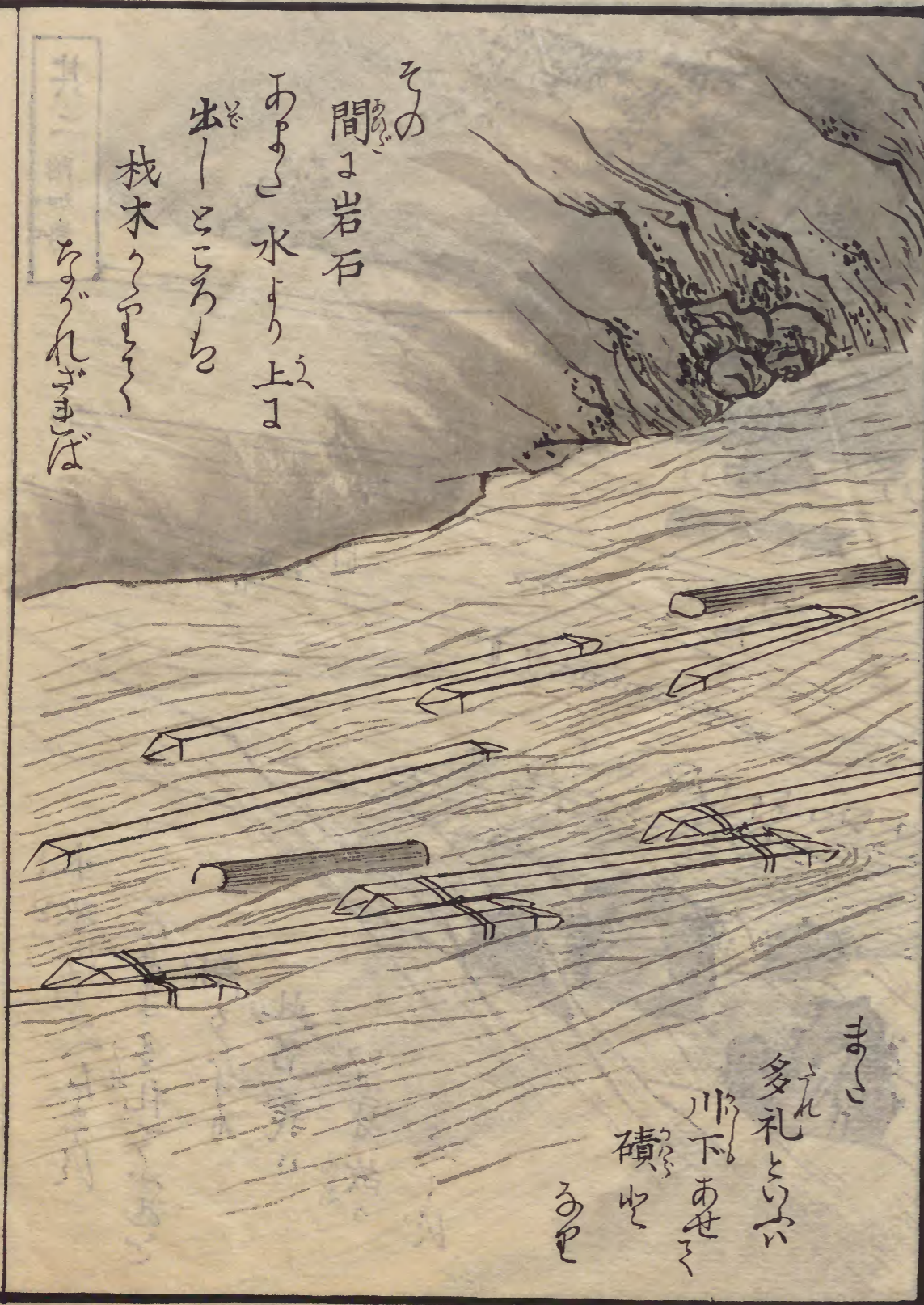


尻藤 雇丁水は溺るし  
とさるこの藤綱は  
紐アて遊ぎ岸に  
つきすの桴よめる  
とぞ

- イ六 中木 同五寸
  - イ七 身持木 同六寸
  - イ八 身持脇 同 搦藤溝付
  - イ九 起木 同断 同
  - イ十 同 同断 同
  - イ十一 耳木 同 同断 同
  - イ十二 同 同 同断 同
- 用藤之名 いづれも真藤を用
- 搦藤 大廻藤
- 打起藤
- 雞卵藤
- 網藤 長六尋或七尋
- 尻藤 長五尺







其の  
 その  
 間は岩石  
 あまゝ水より上よ  
 出—ところち  
 枝木くくまき

ま  
 多礼といひ  
 川下あせ  
 磧也  
 む



延綱寺

たまの図

川の形勢ありき處は  
 雨ふ留綱延綱と  
 こゝ—枝木前後の  
 あまの川裡のびざね  
 ままこ不時出水よ  
 流散せぬ

た  
 留綱と  
 日  
 ぼ





其二 附如勢

水脈のつゝたがは  
 ためよ多礼てふ物と  
 制るたすり  
 此名義ハ  
 いのち故り  
 ち〜ん





往来と  
はる也



枚木川下船場假橋之図

廣嶋村

枚木と留綱より舟  
畢るまのそは  
渡船よりたは  
枚木のつら  
橋と  
架て



留綱張渡之図

川東綱株

名倉村  
枝郷鳴村

真物綱二房  
綱株間三十間餘



美濃國大和湊

下原中綱

下麻生湊

うりふて肝要

留綱

年々手強く

綱と

たより



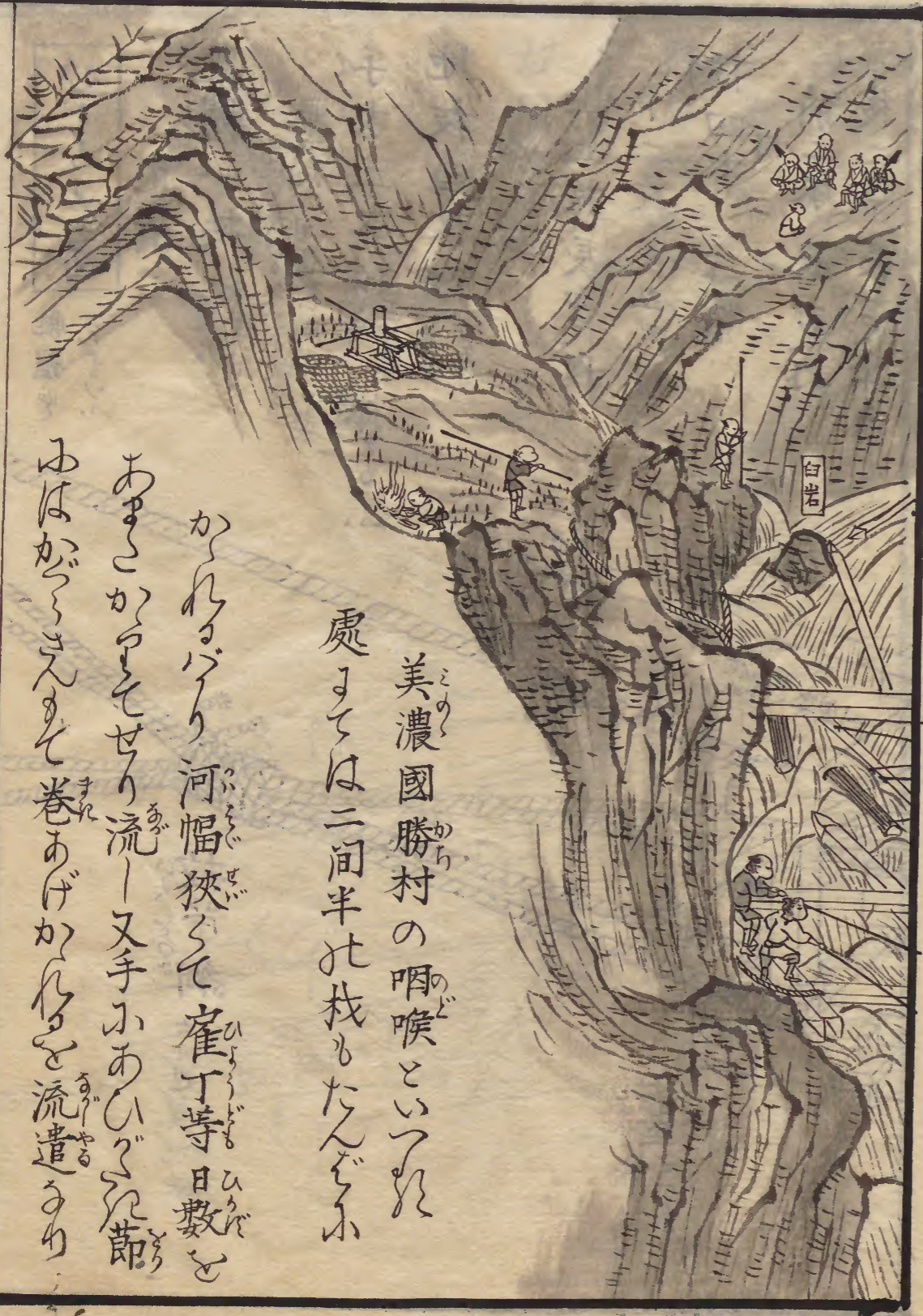
大和湊



勝村咽喉之図

飛驒河の上下は幅七八十間も

あつたりの大河をいふ



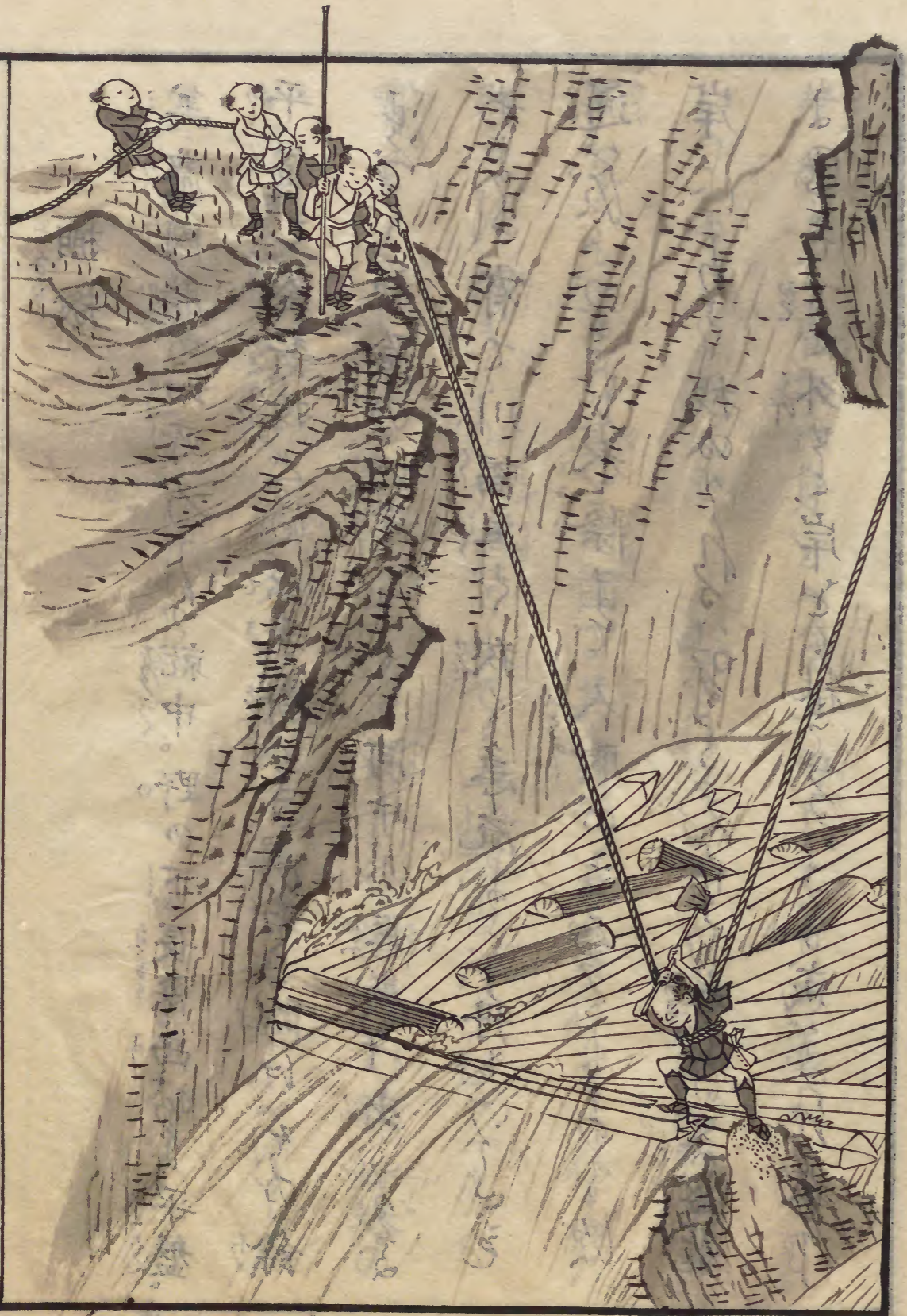
美濃國勝村の咽喉といふ所  
處までは二間半は枚もたんとす

かたがはり河幅狭くて  
あまこからをせり流し又手ふあひがた節  
ふはがらえもを巻あげかたを流遣り









七文之圖

鋼の橋を引く

くさばらつておぼろぐれいせー ちのりいんせ  
うきり 流るりせーせーせーせー

礼表

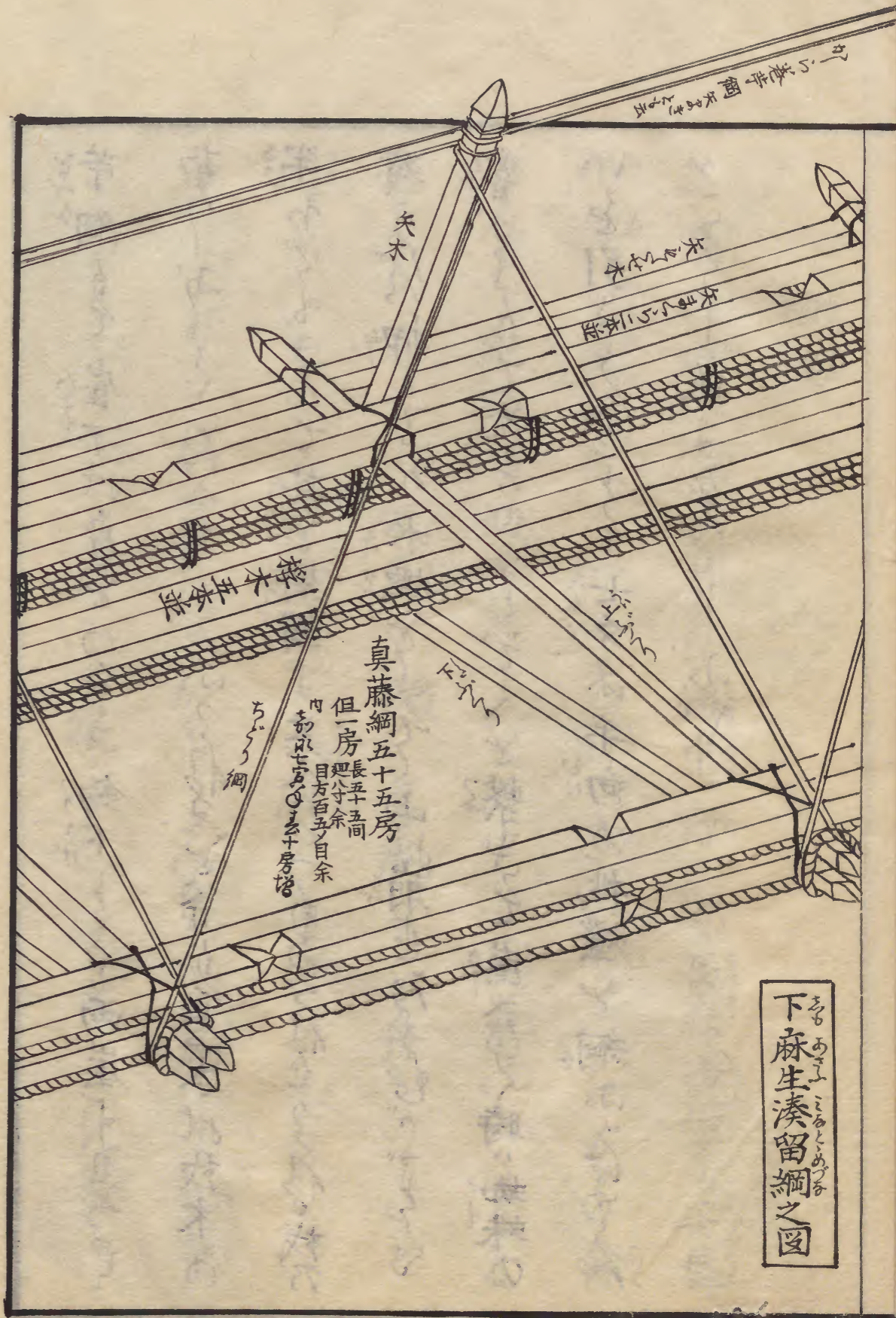
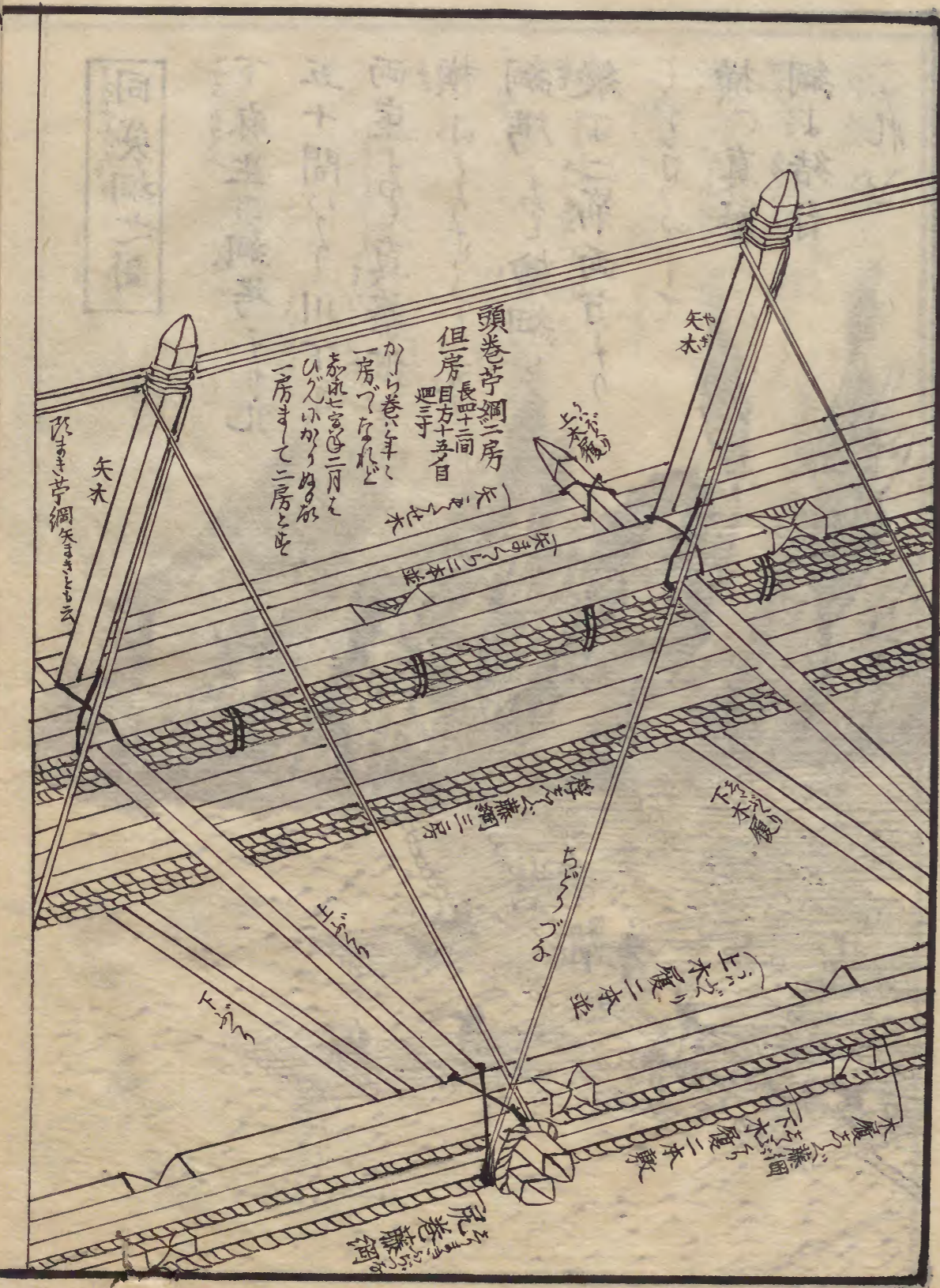


棚機

美濃國勝の切所乃ら就中野の下長森西あり。平盤  
平釜乙釜新抜と依出来新できのゆふつけその餘  
よぶく絶險の切岸あり河中小巨巖は出するま  
あもつ有て川幅至く狭く急流あり舟もつごそ  
通づいづも水際まで人脚の立ぬくもあつ次  
岸にゆりく枝のうねるはかきさえりく巻あげ又盛籠  
よのりて下て外せど岸と相つるはこも成づれ故り

芋綱めて雇丁れ身とつるま釣下とく西崖よりつと  
あうあうとたんごふくねると斧りて一本は枝木の  
半やもまきりて其と相圖は其人残つあざれをくねる枝乃  
残らび押きり水煙とく山は崩きたるむがごとく  
響くよりて流まわくごとく人と繋ぎて崖へひく時蜘蛛の  
いと引さるんごとく七夕小手向の挑燈と綱ふくけん  
かごとく故もなげけしや





下麻生湊留網之図

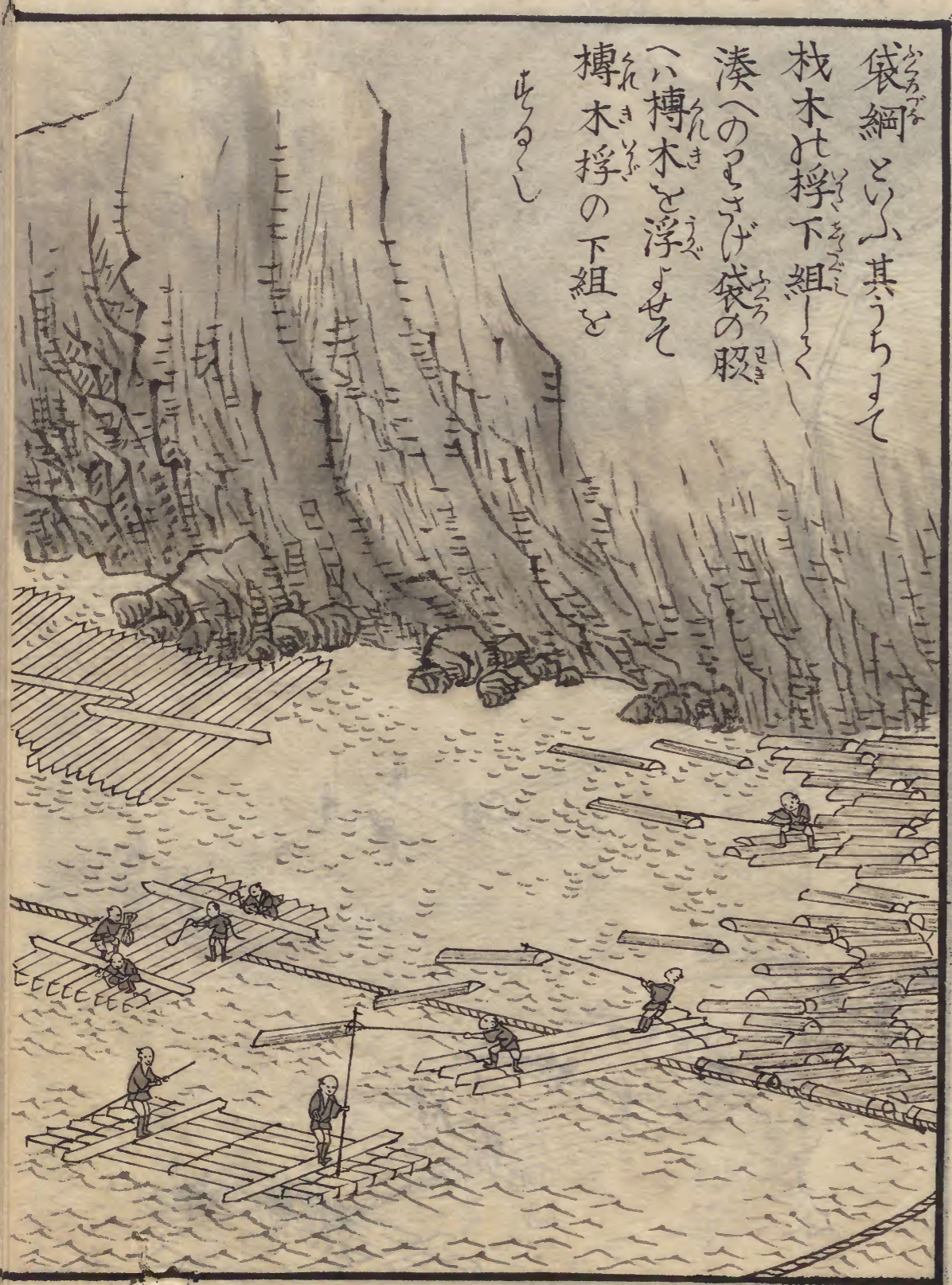


同袋網之圖

下麻生の綱場より九  
五十間づり川下よ  
両崖より真藤細を  
横ふりしりて又  
綱場より檜綱を  
縦よ二筋両方より  
これと



袋網といふ其うらよて  
杖木は浮下組  
湊へのりまび袋の股  
へ一樽木と浮よせ  
樽木浮の下組と





巖陰銘

天保九戌年六月  
御杖木為綱掛切割之

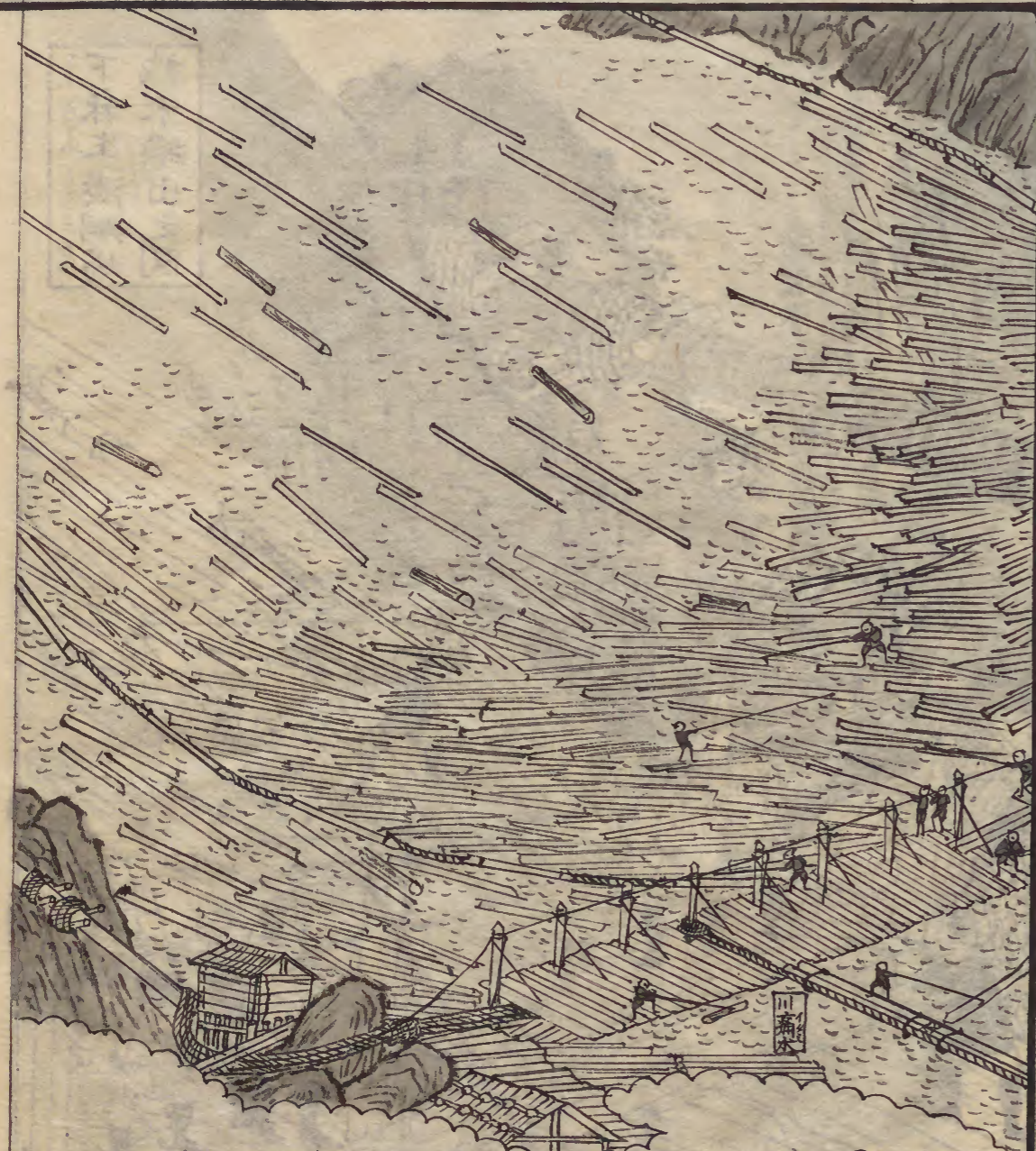
白鳥  
中村

大岩切割  
高六尺 徑五尺  
底三尺 長九

天保九年より以  
前ハ川東の巨岩  
此綱株保方あく  
やもせんを  
洪水の節水勢  
つづく綱と押切  
て枚木流散一

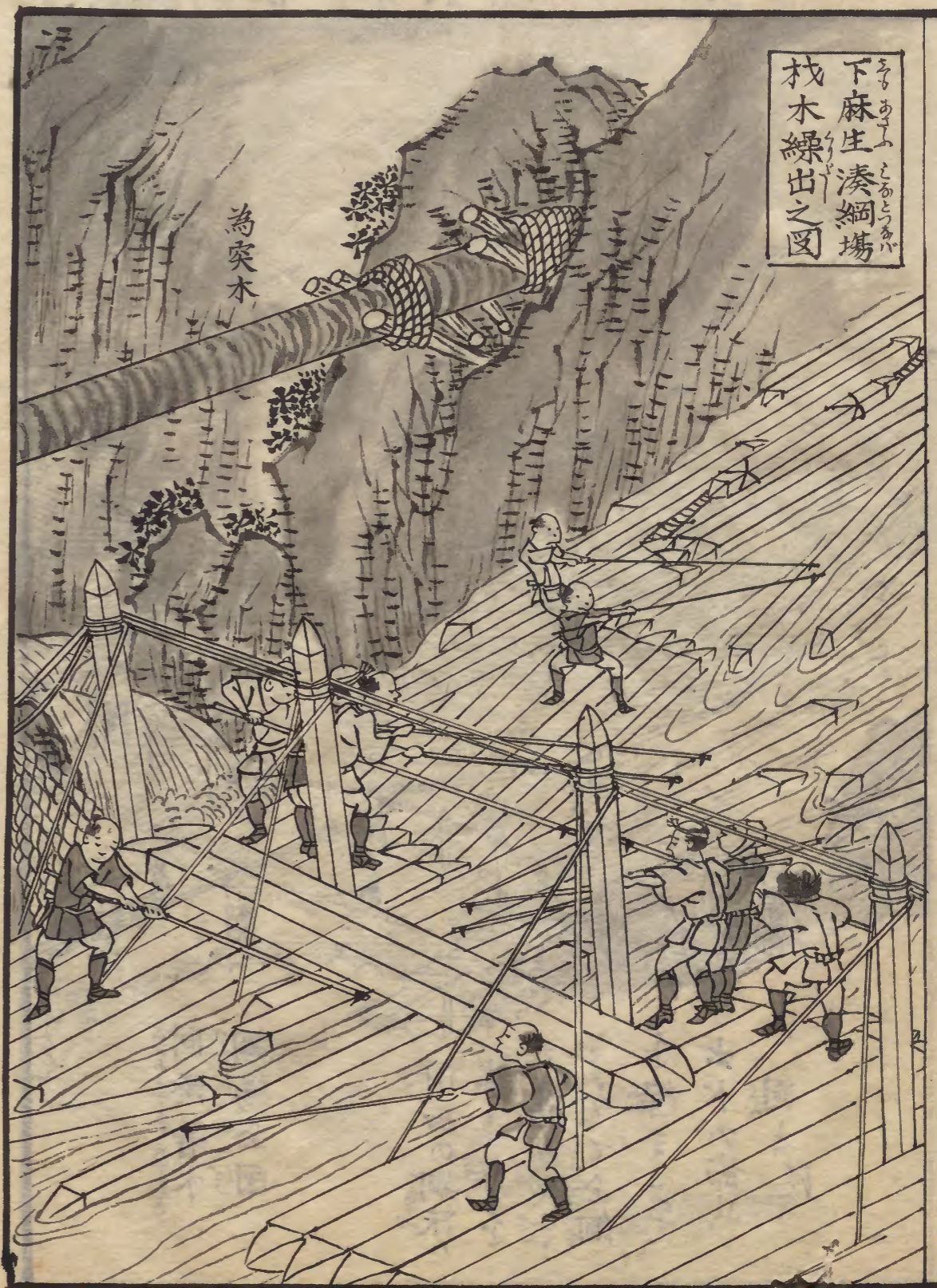
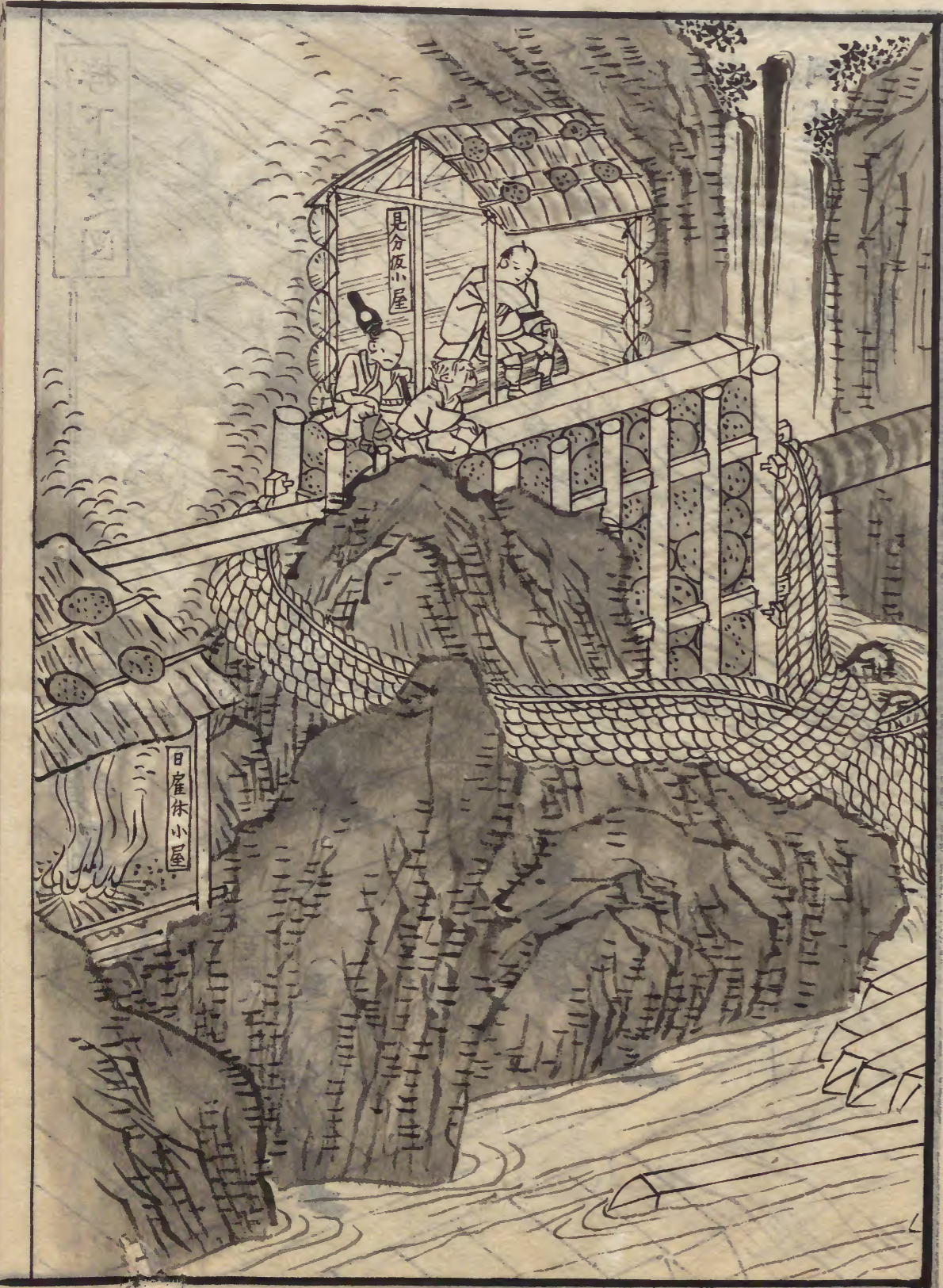


けつと中村屋乃  
手れとの甚助と  
いつりの其と歎  
そごりた金と  
いって巨富の根  
廻と切割てより  
以来綱の保ち方  
つづく綱と押切  
て枚木流散一



同湊着木  
綱場全図  
川西の綱株ハ  
嵩は梓を  
立そく為突木  
とりて全綱  
を締まとめて  
出水の節北  
固と尺





下麻生湊綱場  
枚水繰出之図

為突水

見分小屋

日産林小屋



桴下組之圖

網場よりくり出  
せし杖を鳶嘴竿



まてかきよせせてさへ本  
と二本横へ杖と

其下へ敷並べ

間竿こつて

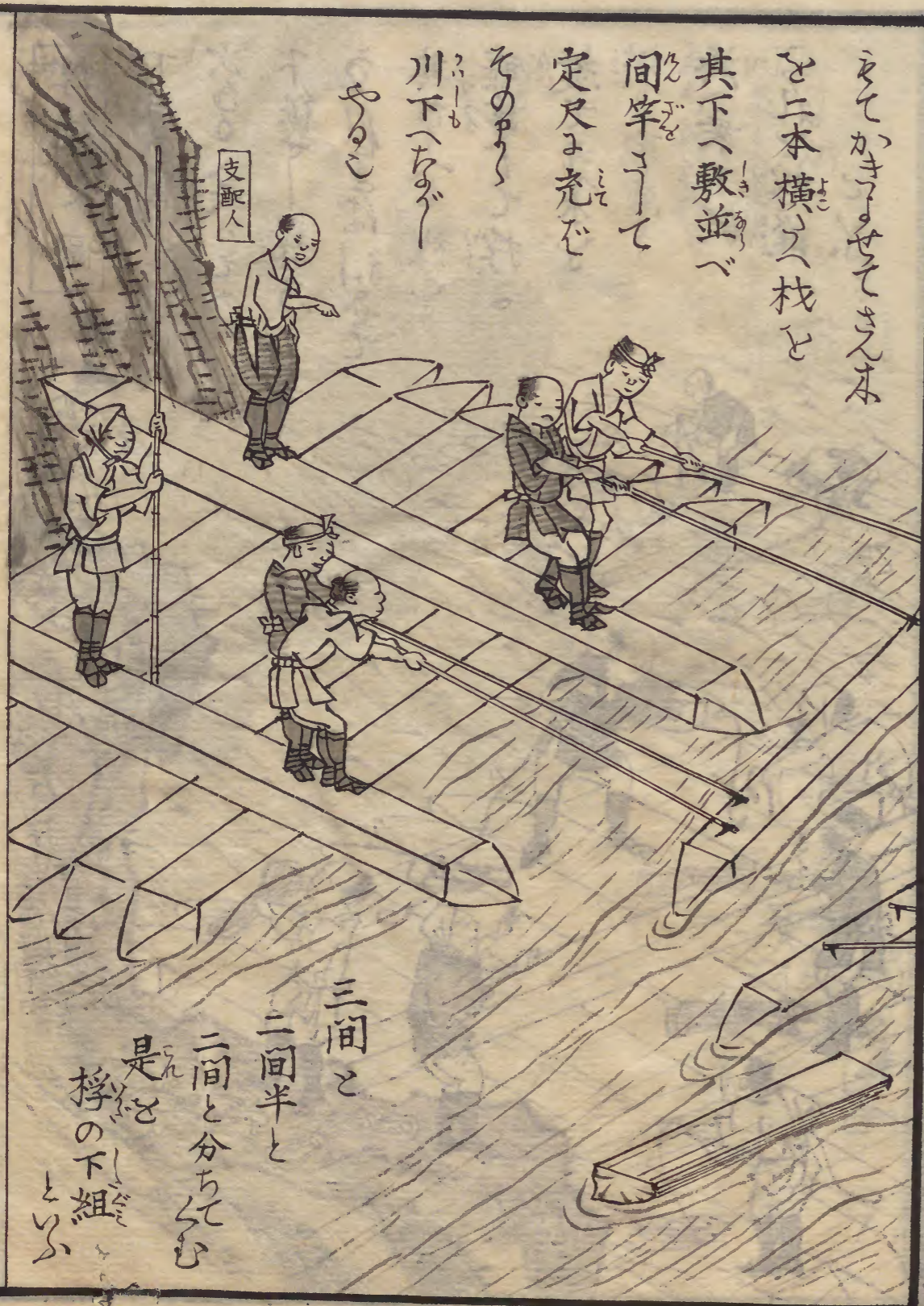
定尺を充て

そのす

川下へたが

やうこ

支配人



三間と

二回半と

二間と分ちて

是を

桴の下組

といふ



桴縫之圖

下組の雇下れ  
次ある人夫いその  
下せせー桴乃  
るがれまばりきそ  
其るべー枝と  
藤蔓めて桴よ  
縫てま木と  
横へーし  
湊へ乗下れ  
これと桴縫  
といふ



ま、十三歳る男兒  
あのがかのまの、藤束と  
問屋より荷ひきて桴ぬ  
雇下等へ投りて  
いゝ組の  
うちち  
毎日







下麻生村



縫浮從綱場乘下之圖

上吉田村



藤製之圖

下麻生して綱のり立  
 已前まご桴組はうら  
 ちと日ミ桴問屋の  
 宅七前後ふ邑七老人  
 共數十人より集て  
 藤蔓とよ七枝蔓  
 魚蔓とよ七除き  
 蔓と精選して  
 桴場へ送る  
 壮丁若漢い  
 杖木の



繰出  
 い組  
 働ら  
 藤  
 老人の  
 所作  
 藤把の  
 ちり  
 ちび  
 え



飛州御用

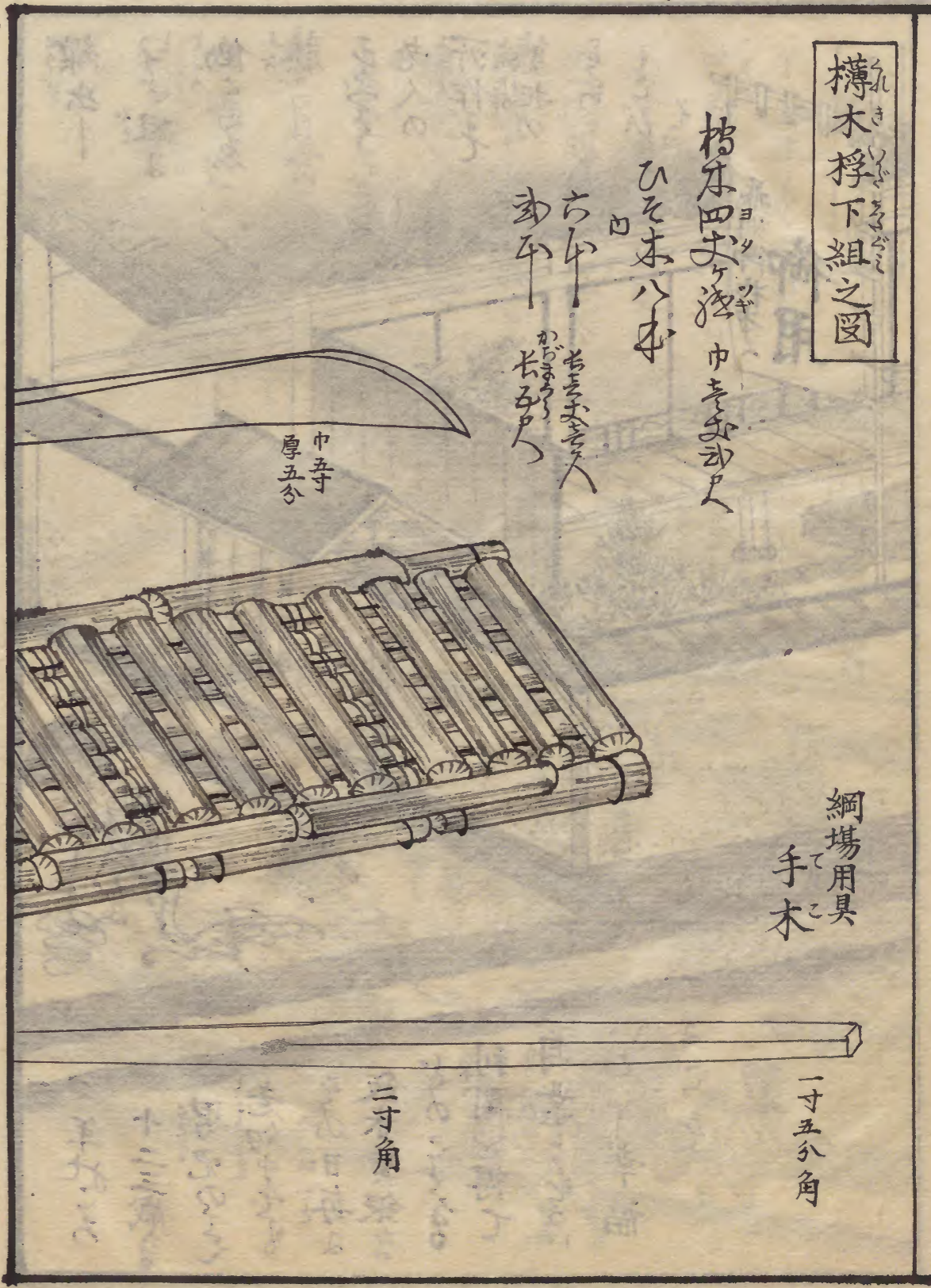
年七ころ  
 十二三歳ある  
 男兒の  
 老幼までも  
 その日毎は  
 飯米賃銀な  
 どのことなる  
 利潤と得て  
 身業とせむハ  
 いとく幸福  
 みころ



樽木掬下組之圖

後拾遺集小暮と  
かねるる歌  
海き遊とこに  
從士の徳よ  
るのよめくれも  
あやうくける

樽木四六ケ酒 中き五尺  
ひそ木八寸  
六寸  
あやうくける  
長五尺



中寸  
厚五分

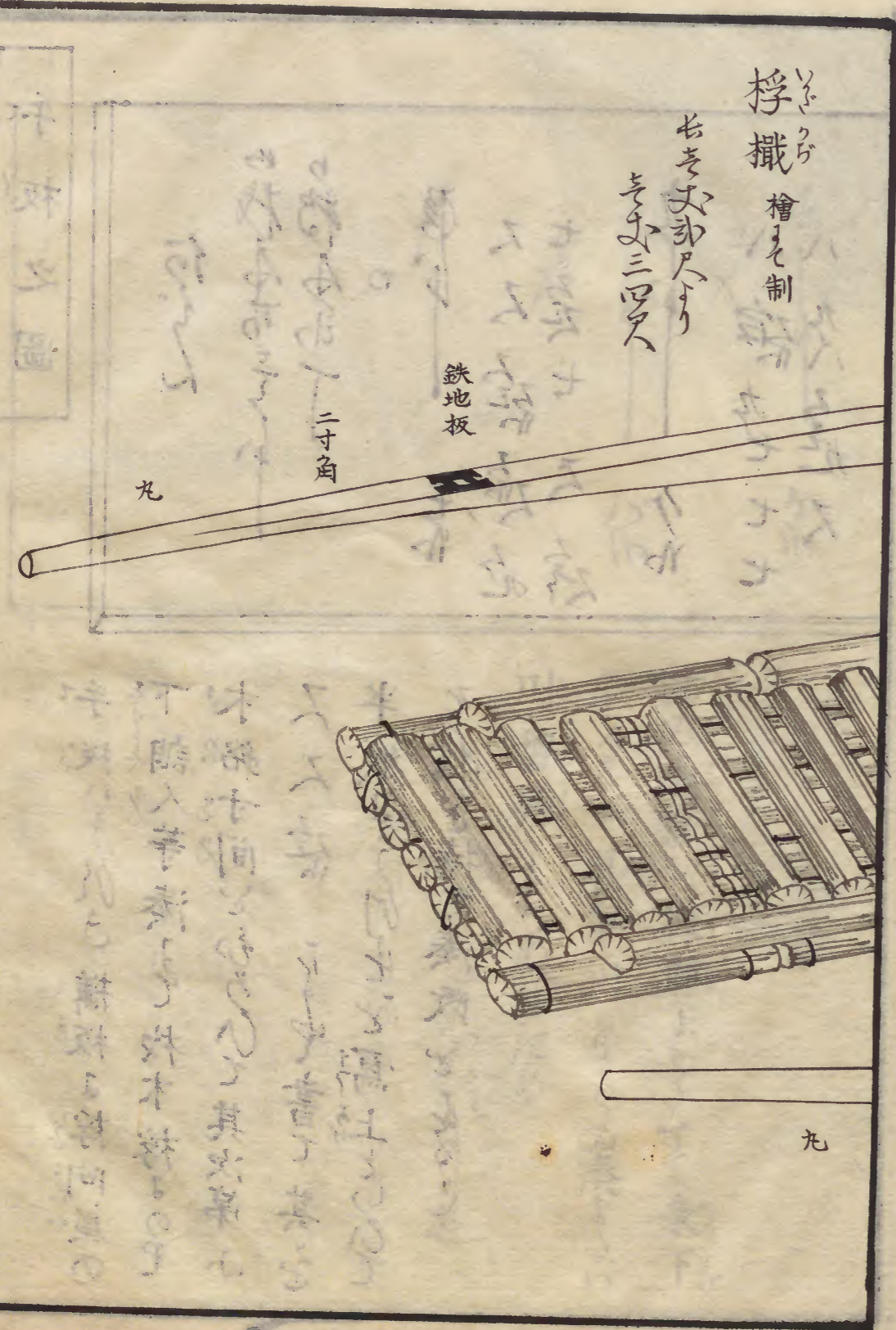
綱場用具  
手木

一寸五分角

二寸角

掬撮 檜を制

長き六尺より  
きよ三四尺



鉄地板

二寸角

丸

丸



手板之圖

何れん

わねあしきい  
りねあしきい

あしきい

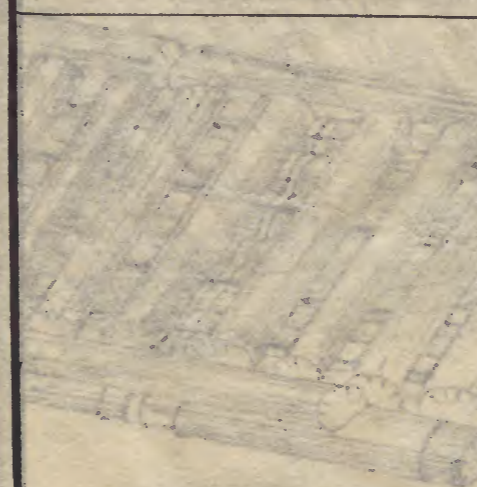
毛

スス  
七  
ス  
ス

九  
ク

ハ  
ハ  
ス

手板いりき構板は椽問屋の  
下調人等湊して枚木椽まの  
木銘寸間とむらひて其次第小  
スス  
半紙まうのせと寫上といひて  
それを持て湊改とよこ



あしきい  
あしきい  
あしきい  
あしきい

この手板と椽師とを乗下  
川番所とてあつた也

手板

手板は椽問屋の  
下調人等湊して枚木椽まの  
木銘寸間とむらひて其次第小  
スス  
半紙まうのせと寫上といひて  
それを持て湊改とよこ





檜綱五房  
但一房  
長七寸廻  
目方三十貫目

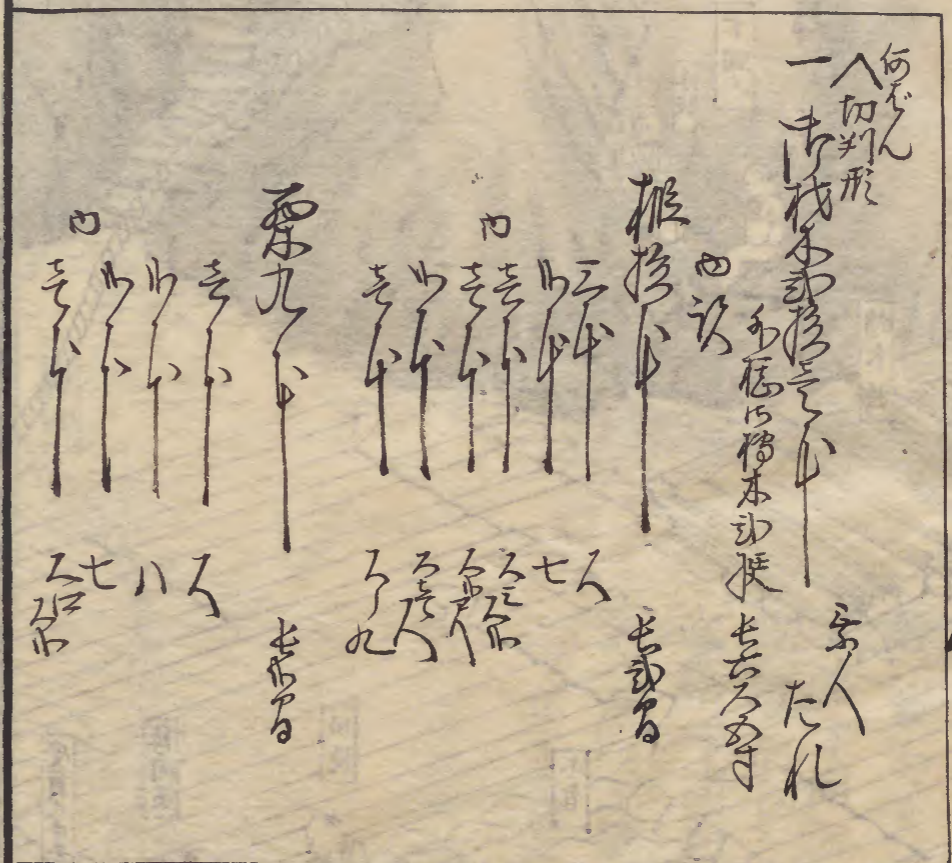


湊改之圖

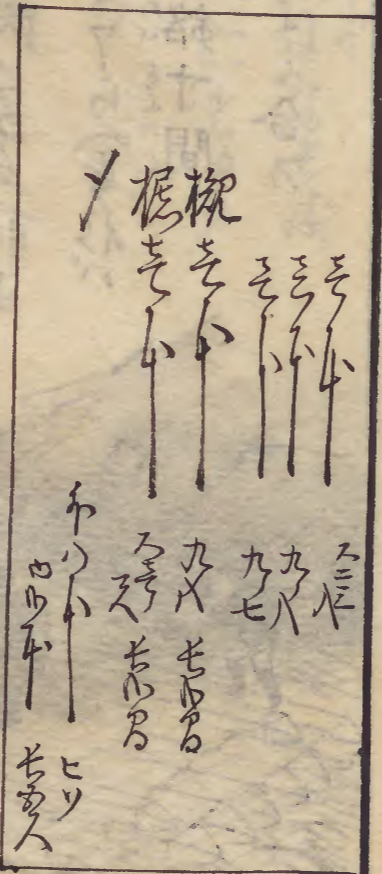
下麻生の綱場にて下組檜縫して乗下  
しと湊へけり入るゝおまゝ一檜綱とらせ  
懸留ありと日ニ檜上りて多人數出棧の  
木銘寸間とよませ手板写上と読合極印乃  
岩摺をよごし打直一枝の石喰まかりて  
木銘寸間切判るゝの摩滅せし切直させ  
あつらひと湊改といふ是ハ嘉永七年此春  
あつせりとて



樽送状留之図



湊改せ一寫上と持帰  
 して木品一廉のうらま  
 角も平物も太木より  
 先へ拾ひ留帳とあり  
 送状と記し  
 送状と大判の美濃紙  
 書て読合算當調印  
 一と渡り



ひそ木といふ松丸木六七寸廻の細木と樽のこえ木から枕等へ  
 藤蔓りてゆひ付樽と保固しつため小用ゆとひそ木といひ  
 湊とそとのつと上樽とるなり

樽送状留之図



浮上糺之図

湊改おのまは乗人ども  
 出くさん木袋束木  
 檝枕くりこつが  
 ちそ木等  
 藤蔓もて結付  
 ると上ぐらといふ  
 湊改せざる前よ  
 上ぐらへむね  
 木銘寸間  
 のよこ合の



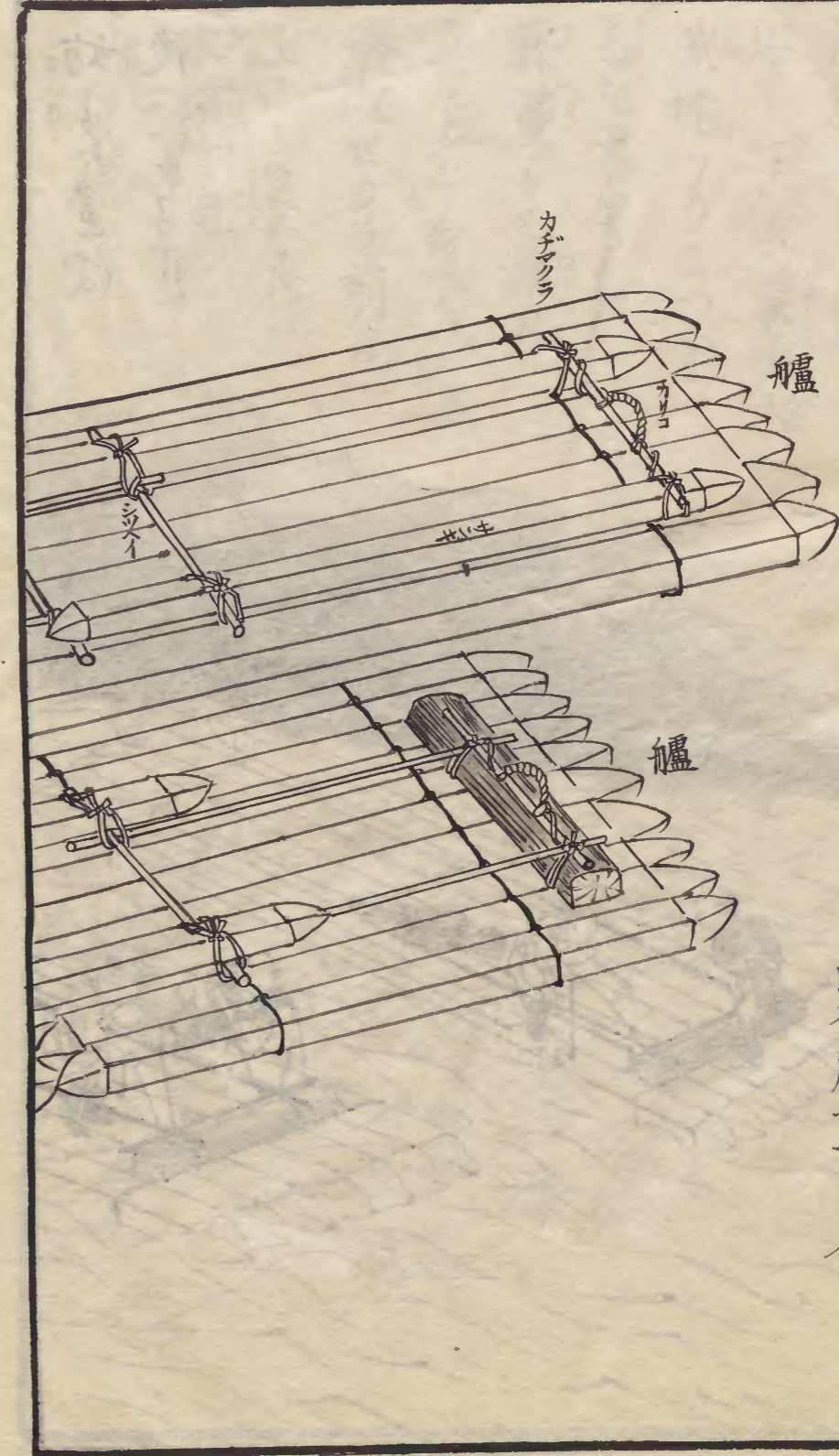
妨よなるまは  
 後ににせらるゆ  
 よろ



浮上糺之図



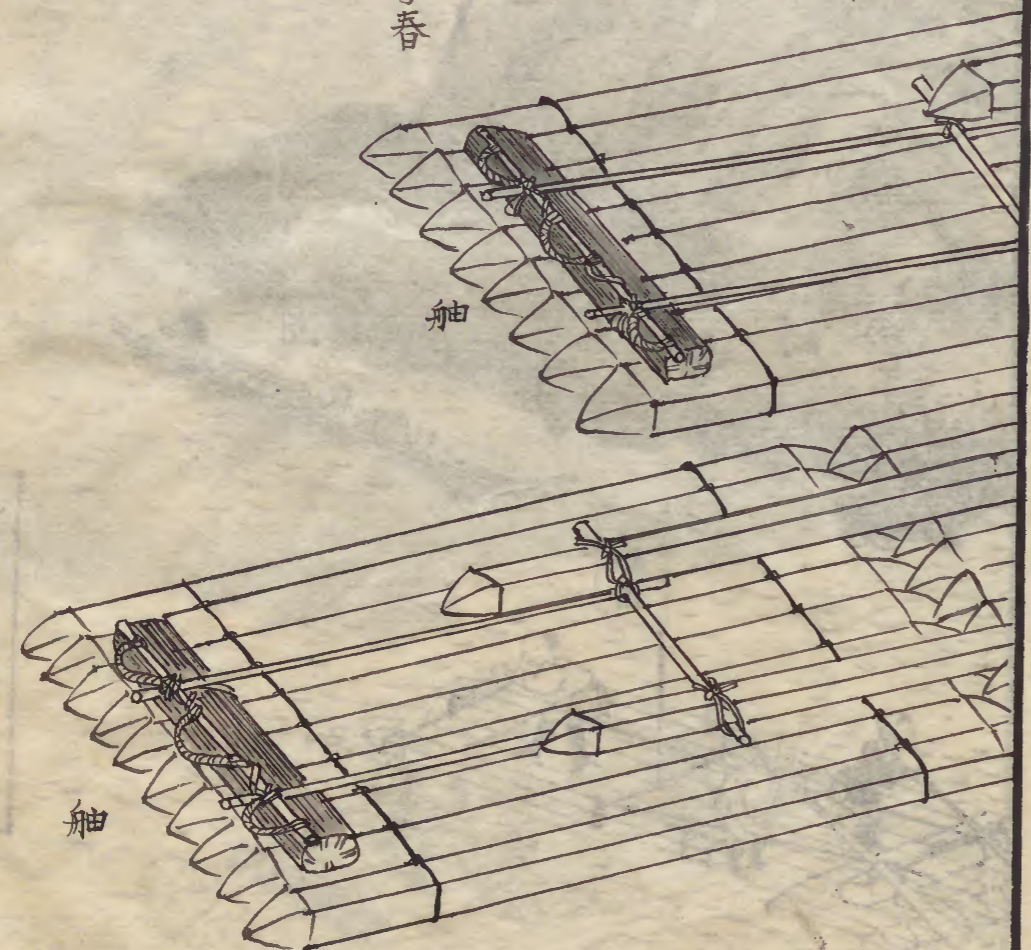
櫛之圖



平均一乘

真藤十二貫目  
此精藤七貫目餘 縫搦共

三間 櫛 長三間 幅一丈一尺  
 内 ひと木六本 嘉永五子春  
 二本 長一丈一尺  
 二本 長五尺  
 二本 長五尺  
 継 櫛 長五間或四間 幅一丈一尺  
 内 ひと木八本 嘉永五子春  
 四本 長一丈一尺  
 二本 長五尺  
 二本 長五尺





湊へ見送り  
 湊へ出く送状と  
 問屋へ見送り  
 初摺り末摺迄  
 湊と漕出するを  
 見送りて問屋  
 と見送舟のり  
 一めておろし  
 毎日四十五乗も  
 摺数の出るを  
 早行といふ  
 也



摺見送之圖





大枝藤浮之圖

播らどりの大枝と  
 川うげとるめは  
 出水とんあらせ  
 前後左右一  
 長二間は五六寸の  
 角と十本ほど  
 機具は藤のごとく  
 藤蔓もてからみ  
 大枝のめと貫き  
 めひつけく左右



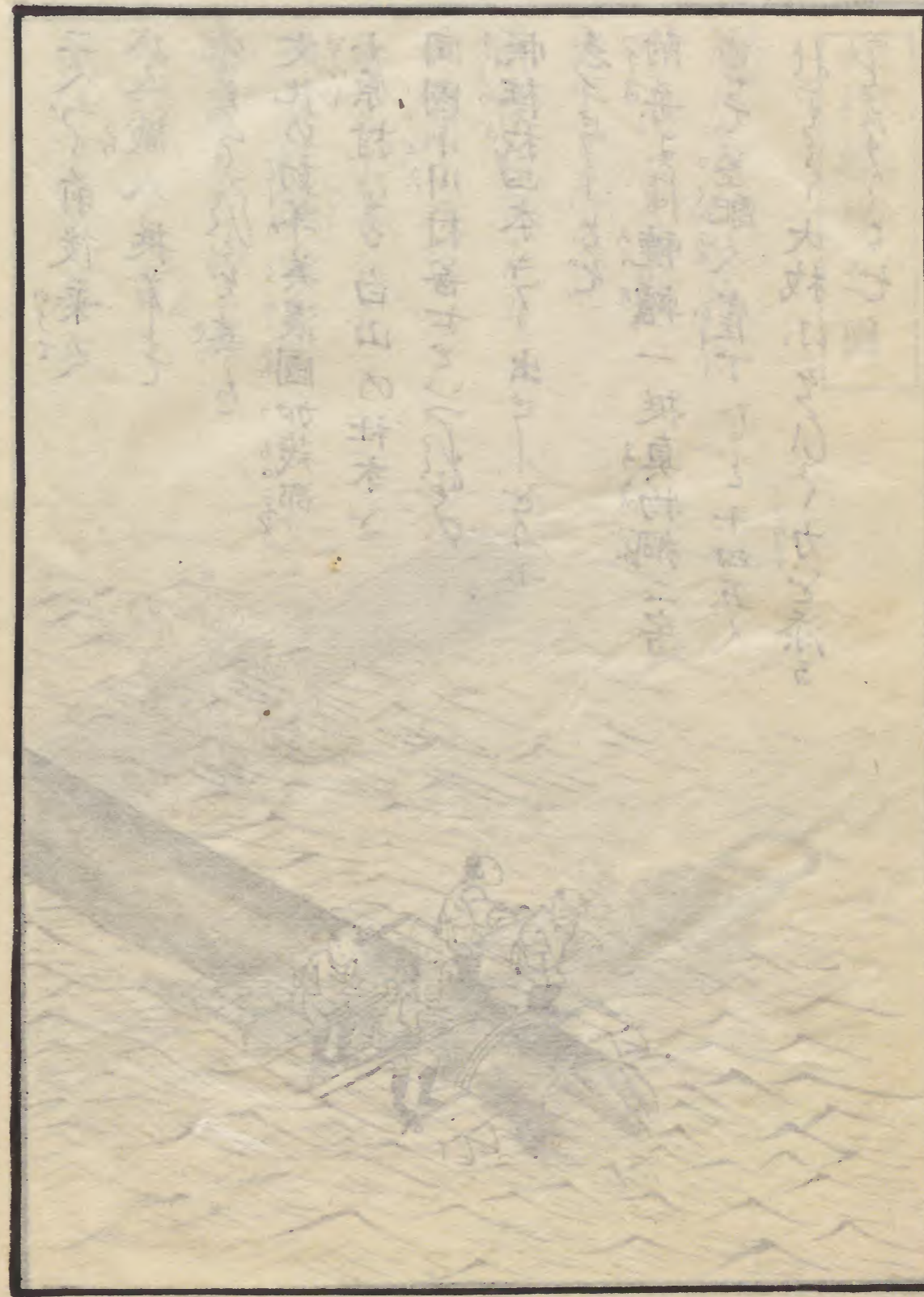
二人づ前後乗人  
 八人楸八挺一にて  
 のりてうげとるめを其ち  
 文化の初年美濃國加茂郡  
 小原村なる白山の社木と  
 同國小川村善七といふ者の  
 帆柱枝四本きり出せりとらふ  
 ちつせりとらふ  
 附舟は轆轤一挺真物綱二房  
 のせて差配人雀丁ちほど十四五人  
 けりて大枝小そひくかど添る  
 ことなりとらふ





運材圖會跋

材木生於深山之中。乘川水至通邑大都。以濟其柱  
桶椽楹之用。在周易。巽行坎上。謂之渙。渙者渙散之  
義也。然而不得人之巧智而助之。則二者有所礙。而  
不得成渙散之用矣。何以知之。以運材圖會知之矣。  
圖會者飛驒之官吏富田和卿所著。記飛人運材之  
事焉。飛國絕險。材不可陸送。丈斷而投之江。運夫皆  
踏其方角而立。長杖施鐵牙。以行群材焉。旋於洄者。  
沉於汰者。閣於沙而勾於石者。引之撞之。蕩之掉之。





必使之整頓而齊行也。益田河狹隘。口唯容丈。其直下而過者。乃得通而無事。其大且長者。往往衝而礙焉。橫塞不下。急流駕之。不可左右。後至之材。漸次蓄聚。鋪如槎筏。於是降器械拔之矣。數百人勾而牽之。不拔。繩人斫之矣。兩岸降長繩。繩者下斫之。斫將斷。豫聲岸上。以備拘上。一斧材斷。奔濤與群材下擊。拘上稍後。人爲觸死。危險之甚者也。下麻生爲官檢之地。江流暢濶。材櫛比而下。則長繩施。鹿角勾而止之。一時檢而盡。而後放之入海矣。嗟乎。止則行之。行則

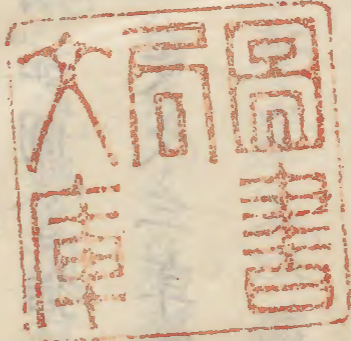
止之。人之巧智。乃至此乎。和卿多著書。皆以世用爲期。如圖會猶其緒餘也。

文久三年癸卯晚冬

劉昇君平撰



*[Faint vertical text, mostly illegible due to fading]*



二十八年六月七日。...



